
若者は英雄になれるか?

必殺ファンの一人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

若者は英雄になれるか？

【Nコード】

N6248Z

【作者名】

必殺ファンの一人

【あらすじ】

別世界の風都にて切り札を授かりし少年”左門章太郎”
しかし、その男に取って……闘いは己の退屈を満たす為でしか無い。
彼は英雄になれるのか？

FILE 1 仮面舞踏会（前書き）

もう一つの方も亀更新ですが、両方とも進めて行きたいと思います。

FILE 1 仮面舞踏会

FILE 1 仮面舞踏会

左門章太郎……私がお前が行くべき明日を与える

「行き成り何だ……あんた？」

風の街”風都” 此れから先の未来、数多くの都市伝説が生まれる”
エコ”の街。

この街に住む多くの人々、他の県からの人々にも愛されるこの街にも”闇”はある……とても17歳には見えない体格を持つ青年”左門章太郎”は、

人生の岐路とも言える瞬間に遭遇した事に、戸惑いを覚えていた

私はシユラウド……貴方を地獄に誘いに来た

「地獄、か……本当だろうか？」

その為の道具が……此れ

全身を黒ずくめの服に包み、顔をサングラスと包帯で覆った長髪の女”シユラウド”

シユラウドが放った、右側がスロット状の挿入口となっている目立つ形状をした赤い大型の機械が
章太郎の腹に触れた瞬間、機械の両サイドから銀色の金属帯が飛び出し、章太郎の腰に巻きつく。

「ベルト……？」

そして……このメモリを

次に放られたのは、全長10cm程の黒いUSBメモリ、
Jと大きく刻まれた左下には とう書かれていた。

「……………」JOKER」」

そして…………ただ一つ存在するスイッチを押した。

『JOKER!!』

後は…………

やけに力の籠った電子音声、
続けてシユラウドが説明を続けようとするのを章太郎が手で制す。

「もう良い…………大体分かった、こうだろうか？」

ベルトへメモリを挿入、そのまま挿入口を左手で倒した次の瞬間。

『JOKER!!』

またも鳴った電子音声が鳴り響き、章太郎の周囲に発生した多数の
黒い金属片が

章太郎の全身を包み込み、既に人間の物では無い両眼が紫のオーラ
を放つ時、”変身”が完了する。

W字型の角、特徴的な赤い眼、黒一色のボディを彩る濃い紫色の意
匠のラインが両肩や両胸に奔り、

両足の紫色のアンクレット、両手首の紫のブレスが電灯の光に当て
られて妖しく光る

「これは……………」

ジョーカー…………貴方に与えた姿の名前

「JOKER……切り札か、中々洒落ている」

そう皮肉めいた一瞬、JOKERがシュラウドから視線を外した瞬間、

銃声が響く……強化された聴覚からいち早く反応したJOKERは右への側転で避ける。

が、シュラウドの事を気にかけていなかった
慌てて振り返るJOKER

「!? お、い い、ない？」

其処にシュラウドは居なかった、まるで最初から居なかった様に

啞然とするJOKERの背中に叩き付けられるのは
”更なる銃撃”

「う ちっ!!」

JOKERは自分を襲撃した相手を見る事なく、力強く駆けだした。弾丸による痛みは……其れほど無い、今の自分の皮膚は弾丸すら通さない程に

頑丈且つしなやかだと言う事が分かった、今さらだがシュラウドが何故この姿に成る為の

装備一式を自身に託したのか分からない章太郎……精々解るのは今の姿の名称、

そして……自分の身体能力が”格段に上昇した事ぐらいだ”

今も続けられる銃撃、足音からして相手は3人……その内の二人が手にするのは恐らく”機関銃”

もう一人は携帯電話……思考しつつ走るJOKERの前方に壁が見える。

どうやら、ビルが重なる路地裏に迷い込んだらしい、常人ならば此処で立ち止まる。

追跡者がその認識を持っている事を、JOKERは願った。

「はっ!！」

勢いに乗って……跳躍、明らかに人間一人の力で跳べる距離では無い。

経験もした事の無い高さにJOKERは戸惑う事なく”壁を蹴る”
約10m程の高さの壁を蹴ったJOKERの体は

機関銃の銃撃に晒されながらも真つすぐ襲撃者に向かっていく

うるたえる黒い礼服を着た黒い頭部にムカデの如き骨が顔に張り付いた存在。

そんな名前も訳も解らぬ存在に対して、JOKERは

「おらあっ!！」

「ぐあ!？」

容赦なく蹴り飛ばした。着地したJOKERに向けられる銃口

”銃身”がカタカタ震えている。

引き金が引かれる前に、JOKERは機関銃を回し蹴りで蹴り飛ばす。

「おのれ!！」

「やっ!！」

ほんの……2 3秒だろうか？ 殴りかかったきた一体の腕を掴み引っ張り、

ガラ空きの顔に裏拳、裏拳の反動を殺さず、遅れて殴りかかる一体

を蹴り飛ばす。

JOKERは抱く……”弱い” 章太郎自身、学校にも通わず喧嘩喧嘩の毎日を送り、その日々に飽きてきた事から”シユラウド”の誘いに乗った。だが……現状拍子抜けだ。

「これが地獄か？ 温過ぎるぜ……ふっ！！」

「っ！？」

「らあっ！！」

背後から足音を殺し、殴りかかろうとした一体にJOKERは容赦なく、背面蹴りを叩き込んだ。

「うう……」

「どうした、掛かってこないのか？」

最初に蹴り飛ばした一体が、弱弱しくファイティングポーズを取っている。

だが足が出ない、腰から下が震えているからだ。

そんな様子を見かねて、JOKERは

「ふん」

「！？」

張り手で相手を突き飛ばす、体勢は……無論崩れている。

JOKERは容赦なく、全力の蹴りを叩き込んだ。

「うわぁあ！！」

防ぐ間も無く相手は蹴り飛ばされた。

ると其々タイミングをずらして

ジグザグに走り出す。 JOKERは小細工なしに向かえ打つ！！

「は、うらあー！！ たっ！ はあ、らああー！！ やああっー！！」

近い相手を殴り、殴り、殴り、殴る。

一瞬たりとも恐れず相手を殴り倒す様はまるで嵐

暴風の如き男の前に……異形の男達は為す術が無い。

「うう……おの、れっ」

「おいおい……この程度かよ、弱すぎるぜ」

倒れ伏す男達に対し、 JOKER 左門章太郎は腕を組み退

屈そうに首を鳴らす。

いや、そうにはなく……実際退屈だった。変身当初には恐怖もあつたが……

銃弾が効かないのであれば後はいつも通り……やるかやられるかの土俵での喧嘩だ。

修羅場と言う意味では男達に部があるだろうが、こつ言う条件で章太郎は負ける気がしない

その事が更に退屈に拍車を掛ける 何時の間にか倒れ伏していた男達が逃げ出している。

「その姿……覚えてぞー！！」

「お、おい……！！」

思わず手を出した JOKER に順番的に最後に逃げだした異形の男は見向きもせず逃げ去る。

「ふんっ」

乱暴にメモリ挿入口、スロットを引き上げJOKERメモリを引き抜くJOKER。

風の音と共にJOKERの皮膚が黒い金属片と崩れ落ち、人間”左門章太郎”の姿が現れる。

昔ながらのバンカラストایل……彼を一言で表すなら此れだろう。鏝の長い学棒、無地の白Tシャツを覆う丈の長い学ラン、少々だぼついたズボンに、鉄ゲタ、加えて人懐っこいとは無縁な強面の顔……一般的に見ても充分”時代遅れ”のファッションをした不良と言えるだろう。

「ちっ……つまらねえぜ」

章太郎はメモリとバックルを学ランのポケットに突っ込み夜の風都へと繰り出す。

イラつきと退屈を解消する相手を探す為に……それならたとえ警官であろうとも構わなかった。

「（どっかにいねえのかよ……俺が井の中の蛙だって思い知らせてくれる奴は（）」

何かを守る……何かを救う……戦士として最も優先すべき心が章太郎には乏しい。

ただ自らの欲を満たしたいが為の荒々しい風。

それがドーパントと呼ばれる怪物と変わらぬ事と、今の章太郎は気づく術が無い。

FILE 1 仮面舞踏会（後書き）

ドーパント募集の方は後4〜5話進めてから募集を開始しようと思っています。

FILE 2

暴力（前書き）

うぐむ、ちゃんとハードボイルド、と言っかシリアス出来てるか不安です。

暴力……其れは生きるものなら誰もが持つ力。

そして……いとも簡単に出すことが出来、傷つける力でもある。

暴力は姿形を変えて、存在する、星に生きる命の数だけ存在するのだ。

腕力、言葉、嘘……やられた数だけ体が傷つき、やられた数だけ心が傷つく。

度をすぎれば……心が死に、体も死ぬ。力には見極めが必要だ、

抑えることが必要だ。

其れが出来なければ……欲望に流行る野獣と変わらない

左門章太郎を始めとする大勢の人間が暮らす風の街”風都”は都市伝説が多い。

”骸骨男” ”死人帰り” ”百足男” ”蜘蛛女” ”ゴキスタ

ーズ” 上げれば切りが無いが、

市民にも信じられていない都市伝説ばかりで信憑性も無い。人々は自らが形成する日々を過ごすただけだ。

一瞬、長閑だとか……平和ボケとも言えない事はない風都にも人々を脅かす止みはある。

今現在最も世間を騒がしているのは……14歳から18歳までの学生達を狙った”連続殺人事件”

未遂も含めれば実に30件もの犯行が起きている、少なからず……死人も出ている。

その数は実に4件にも上る……4件とも、逃げ道を失った後に、原

形も残されず”潰された”

警察の捜査は当初難航するかと思いきや被害者たちの共通点は実に簡単なものだった。

死亡者4人被害者37人の共通点は風都市内A中学校のクラスメイトと言っ点である。

担任教師を含めた総勢41人の平凡なクラス、特に突出して良い所がある訳でもない、

どこの学校にもある様な平凡なクラスだった。世間体に引っかかる様な悪い噂も見つからない。

最初はクラス内の誰かの犯行かと思われたが、最後の被害者が現れた事でその線は消え去り、

学校全体、周辺地域に的を絞り必死に捜査を続けた風都警察であったが容疑者どころか目撃者すら

上がらない……そして、時が経つにつれ、風都市民の恐怖も薄れ、事件は段々と忘れ去られていた。

風都警察の力も及ばず事件は……”解決した”こう言った形で。

ある日の昼、左門章太郎は何時もの服装で街へと繰り出していた。特に何を目的、と言っ事では無い……ただ休日で学校が無いからと言っぐらいである。

ブラブラと近場の公園に赴き、ベンチに腰かけ、空を見上げる。

ガイアメモリ、ロストドライバーを受け取ってから3日後、

章太郎の自宅にDVD付きの封書が届いた。差出人の名前は書かれていなかったが、

どうせシラウドだと気にしなかった。手紙の内容はガイアメモリ、ドーパントついて全般、

ジョーカーメモリの特性、ロストドライバーの役割など多岐に渡り、DVDの内容は実験場と思われる場所でのドーパントの性能テストだった。
幾つもの怪物の中には初陣の相手マスカレイド・ドーパントの姿もあった。

「……………」

コンビニで買ってきたスポーツドリンクで喉を潤し、新聞を読み流しつつ、時間を潰す。
時、身体を解す準備運動を挟みつつ公園で過ごしていると……あつという間に暗くなり、
遊んでいた子供達や、話しに華を咲かしていた奥さん達も帰って行った。

「……………」

今日は何故だか帰る気分ではなかった……この公園に居続ければ、何かが起こる。

そんな予感が章太郎にはあった、だから待つ。ベンチにどっしりと座り、ただ待つ。

時刻は未成年が確実に家に帰っている時、既に数時間以上公園で過ごしている章太郎に

赤、青、黄、緑、ピンク色のたださえ派手なジャンパーに龍やら虎やらの刺繍が入った

如何にも不良らしい格好をした同年代の少年達が近づいてくる。

その中でリーダー格らしい

赤色のジャンパーを着た少年が軽い感じで話しかけてきた。

「なあ、お兄さん、ちょっと話があるんだけど……聞いてくれるよ

ね？」

「ない、とつとと帰れ」

即答した章太郎に赤色ジャンバーの少年は眉をひくつかせるが、青色の長身金髪の少年に宥められる。

章太郎の座るベンチを囲む様に立つ、5人に対し、章太郎は苦々しく思おも表情には出ていない。

そんな章太郎の態度に腹を立てず、後ろに回り込んだピンク色のジャンバーを着た少女が

わざとらしく章太郎に抱きつき、耳元で囁き始めた。

「良いじゃない、少しくらい話を聞いてくれてもさ」

「お前達のような青臭いガキに構っている暇は俺には無い、とつとと帰れ」

「もう、い・け・ずうう」

章太郎の頬に人差し指、押しあて楽しそうに笑う少女……だが、突然その表情が凍りついた。

コートのポケットに伸ばした手を掴まれた事によって。

「ちよ、な、何……？」

「金を狙うなら、他のにするんだな」

自分達の不味い犯行がばれた事によって、周りの少年達が章太郎を抑え込み、

集団暴行に入ろうとするが……”相手が悪い”誰よりも早く行動した黄色のジャンバーの少年は

座ったままの章太郎に顎を蹴られ、緑、青色のジャンバーの少年はストリートパンチ、肘打ちの

素早い繋ぎにより鼻血を流す鼻を押さえ後ずさる。赤色は……恐

怖で足を止められた。

「あ、が……」

「いつ、てえええ」

「うう……ちくしょお」

其々殴られ蹴られた場所を抑え、痛がる彼らを冷めた目で見つめながら、

章太郎は傍で震えるピンク色ジャンバーの手を離し、今まで買った物をつっ込んだビニール袋を持って立ち上がる。彼らの存在など無かったかのようには出口へ向かい歩き出した。

「ち、すかしてんじやねえええええつ!!」

「け、謙二! やめようよ!!」

怒りで己を突き動かした赤色ジャンバーの少年に対して、少女が慌てて叫ぶ。

「……………はあ」

面倒な事をさっさと終わらせるに限ると、章太郎は背後から駆けてくる赤色ジャンバーの少年、

”謙二”を蹴り飛ばし、とっとと自宅へ帰ろうと素早く行動に移ろうと……”したのだ”

「……………?」

しかし、一瞬……時間が制止したかの様な、静寂した空間に章太郎の足が止まる。

何事かと、ゆっくり後ろへ振り向く章太郎……其処には

「け、謙二……!?!」

頭部の無い……つい数秒前までは、”生きていた人間”が、首から血を噴き出し仰向けに倒れた。

まだ生温い赤い血が、少女に降りかかる。さしもの章太郎もその光景には呆然としている。

が 近くのゴミ箱に勢いよく何かが落ちた事で生じた大きな音に意識を戻された。

「謙二いいいいいいいいっ!?!」

「っ!?!」

すると同時に、自分へと向かい突っ込んでくる巨体の突撃をかわす。本能……意識の外の事だが、既にロストドライバーを腰に巻いていた。

「謙二、謙二い!! いや、いやああっ!?!」

「お、おい。 は、は、は、は早く逃げよう!! 逃げるんだよ!!」

「急げっ!! 此処に居たらみんな死んじゃう!!」

「真奈美……ごめん!!」

章太郎がチラリと視線を後ろの少年達に移すと、3人の少年が一致団結して正気を失っている少女を

抱えて、迅速に走り去って行った。あの速さは中々真似出来る物では無いと章太郎は思うも、

目前に迫った脅威を前に何時までも余所見をしている訳には行かなかった。

「ウガアアアッ!!」 『JOKER!!』
「っ!!」

相手はビニール袋に構う事なく章太郎に突っ込んでくる。

メモリを起動し、即座にスロットに放り込んだ章太郎は大振りの攻撃の隙を逃さず、

飛び込み前転でかわし、右手でスロットを倒した。

『JOKER!!』

「ウウウウウ、アアアアッ!!」

「ふっ! ああああああっ!!」

JOKERメモリのガイアウイスパーが発せられ、変身が始まる。

だが、ドーパントにそんな事は関係ない、変身途中の章太郎に問答無用で肉弾戦を仕掛けてくる。

章太郎は振り向きざまに全力のダッキングストレートでパンチを避けつつ、攻撃を加える。

一発、二発、三発、可能な限りの拳を叩き込み

「らあああっ!!」

「ウウ!!」

「はあっ!!」

渾身の右前蹴りでドーパントを蹴り飛ばすと同時にJOKERへの変身が完了した。

よるけ、後ずさるドーパントに対し、ジャンプからの打ち下ろしパンチを決めるJOKER、

攻め手を緩めず、殴る殴る殴る殴る殴る殴る。体格差、筋肉稜の違いからパワー、タフネスの差は

明確な為だ、相手に本気を出させずに倒す、そんなやり方は……得意だった。

「おらあつー!!」

「ガアアツ!？」

前蹴りから飛び蹴りへの繋ぎで、ドーパントは後ずさる。大柄な体格が証明している通り体重もかなりの様でJOKERのマシガンの如き連続打撃も期待していた程の効果は為していない様だった。

「ウガアアアアア、アアアアアアツ!!」

「ふんっ」

雄叫びを上げ、バカの一つ覚えの様に突っ込み、闇雲に拳を繰り出してくるドーパントに

敢えて答えるJOKER、圧倒的なパワーの差を覆す為には

「（当たる前に……当てりゃあ良い!!）」

「ウアアアツ!!」

それだけだった、無論全て成功している訳ではない……全てのパンチにカウンターを合わせる等、

よほどの実力差がなければ無理な話だ、歯を食いしばり揺らぎそうになる意識を繋ぎとめるJOKER、拳を振るう、全力を込めて、耐える、此処で倒れる程の器で在りたくないから

「ずありゃあつー!!」

「ガアアツ!!」

パワーとテクニク……全く違うアプローチで展開された乱打戦は、
終わりを告げられる。
両者互角いや、僅かながらJOKERが優勢だった展開が、ひっくり返った。

「ゴフツ」

ドーパントの左腕……鉄球上の拳によるカウンターボディブローが
JOKERの身体を九の字に曲げる。
予想以上の破壊力ではあったが、何とか踏ん張り攻撃を繰り返そう
とするJOKERの右目に

「ウアアアツ!!」

「!? くあああつ!!」

もう一撃、強烈な左アッパーが加えられ、体勢が上がった所を左ス
トレートを腹部に喰らう。
JOKERの身体は軽く吹っ飛び、一本の木を突き破り、地を10
何回転がり回る事でようやく止まった。
仰向けに倒れるJOKERだが、立ち上がれない程ではない……”
勝負を決める事にした”

「ウガアアアアアアアアアアアアアアツ!!」

咆哮にも似た雄叫びを上げ、自身の肉体を左腕だけ残し、ボール状
に変化させるドーパント。

ドーパントは左腕で地面を殴り凄まじい速さで土煙で見えないJOKER
の落下地点へ移動してくる。

JOKERの対処は……たった一つ。

『JOKER!! MAXIMUMDRIVE!!』

「らああありやああつ!!!」

紫の炎を纏いし拳が、ボール状のドーパントを殴り飛ばす、突然のカウンターパンチにドーパントで空中で変形が解け、”もう一度同じ音声が鳴った”

『JOKER!! MAXIMUMDRIVE!!』

「ガ、アアツ!?!」

殴られた場所から煙が上がり、其れ相応のダメージを受けたドーパントが目にしたものは。

「はああああつ!!!」

己に終わりを齎す……紫の炎だった。

「ちっ」

JOKERのMAXIMUM、蹴りバージョンを決めた章太郎は足

元を払い……舌打ちする。

まだ使つて二回しか経っていないが……JOKERでは肝心な時のパワーが足りないのだ。

だからこそ二連続MAXIMUMに頼らざる負えなくなる。章太郎に取つて非常に悔しい事だが

「(MAXIMUMで倒さなければならぬとは言え……このザマか)」

体内からメモリが排出され、地に倒れ伏す中年の男の姿を見て齒軋りが抑えきれぬ章太郎。

乱暴にドライバーからメモリを引き抜き、近くに落ちていた、先程投げたビニール袋に

中身を回収しつつ、公園から立ち去る。ドーパントの男が生きている事は直ぐに分かったからである。

その翌日

学校へ登校する為、通学路を歩く章太郎の手

元に新聞がある。

章太郎が特に惹かれているのは……トップの見出しだ。

『中学生連続殺人事件容疑者逮捕!!』デカデカと書かれている。

一応確認してみれば、間違いなく『VIOLENCE』のメモリを使用していた中年の男だった。

犯行の理由に関しては書かれていないが、

其れは名誉挽回に張り切る警察が徐々に明らかにしていく事だろう。丁度あるゴミ箱に新聞紙を丸めて捨て、マイペースに登校する章太

郎だった。

この街に……ヒーローが現れるのは、何時の事であるだろうか？
風都の風は……ただ流れるだけ

FILE 2

暴力（後書き）

突然ですが。

別の作品、書いてる時も思っていました……他作品とのコラボ、やってみたいですね。こう言うのって待ってる方が良いんでしょうか？

其れとも自分から申し込みに行った方が良いんでしょうか？

感想も含めて、コラボのアドバイスもお待ちしています。

其れでは、失礼いたします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6248z/>

若者は英雄になれるか？

2011年12月28日00時54分発行